

平成 23 年度

事業所名 : あお空グループホーム釜石

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100047
法人名	有限会社 介護施設あお空
事業所名	あお空グループホーム釜石
所在地	釜石市片岸町2-13-28
自己評価作成日	平成 24 年 1 月 12 日
評価結果市町村受理日	平成 24 年 4 月 24 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391100047&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24 年 1 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護職員の自主性

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、街並みや太平洋が一望できる高台に立地し災害時の地域住民の避難場所と隣接している。小規模多機能センター、高齢者優良賃貸住宅と併設され、三事業所が一体的に運営されており利用者の交流が日常的に行なわれている。大震災に遭遇したが、利用者は比較的平静を保った生活を送っている。職員は被災し仮設住宅からの通勤者もいるなか、明るさと笑顔をもって利用者のケアに当たっている。街の復興とともに、運営推進会議の定例化を進め、利用者の楽しみを更に増やすべく、ボランティアの受入れ、定期的な行事の復活などに力を入れ、利用者が夫々に地域に密着し自分らしい生活が安心して出来るような支援に努めたいとしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 23 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新規採用時に企業理理念の説明をし用紙を配布	会社の理念、3カ条「最大の敬意、心のこもった暖かいサービス、尊厳に満ちた生活の実現」を、ホールや事務室に掲示するとともに、新採用者には特に説明しながら職員が共有し、ケアに活かせるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	震災以降一度も実施できていない	ホーム主催の夏祭りやイベントに地域住民を招待したり、ボランティアの慰問などで住民との交流が深まりつつあったが、震災以後、地域の繋がりがとれなくなっている。郷土食伝承者などボランティアとの交流の機会を再開したいと計画中である。	地域住民との交流の場を再開したいと計画中であり、地域の代表者との顔合わせや市の広報が配布されるよう働きかけをするなど、コミュニティ復活の中核的な役割を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こちらから積極的な働きかけはしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族に「事業所のサービス評価を」してもらっている。	小規模多機能センターと1月まで合同開催していた。利用者・家族のアンケート結果等を議題に3月に開催予定であったが、震災により委員も離散しており体制の立て直しを図り4月の開催を目途に計画中である。	家族から、サービス評価アンケートをとり結果を運営の参考にしている。委員構成員の再構築を図り、関係者の意見等を聞き、話し合いを重ね、サービスの向上に活かせるよう委員会の再開に努められたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括で主催する連絡会議に毎回参加している。	地域包括支援センター主催の会議で市の担当者と連携を図っている。大震災時に施設が地域住民の避難場所となり、市の防災対策の位置づけが課題となった事も含めて今後の対応について市とは更に連絡を密にしたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	努力はしているが、安全上一部拘束がある	多動ぎみの利用者が、ベットからの転落による骨折を防ぐため、夜間のみベット柵を一時的に使用していたが、見回りや目配りを重視し言葉がけも含めて拘束しないケアに取り組んでいる。	日々の支援の中で、言葉遣いや気配りにより拘束しないように配慮しているが、「身体拘束とは」を、テーマに話し合いや研修を行い、職員の意識づけを更に深めて支援に活かされるように期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員には必ずケースワークの7原則の教育を実施している。		

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度はすでに一名りようしている。又、成年後見制度の必要な方に利用を勧めるが理解が得られず実施できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの内容、制度の違いを説明し理解の上で利用している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス評価をしてもらっている	家族からは、盆・正月や毎月の面会の機会、アンケートの中から聞き取りをしている。利用者からは日々の暮らしの中での話題や表情から把握している。家族や利用者の要望などを定例会議で話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや全体の会議の中で意見の集約を図っている。	ミーティングや会議で話し合いをし、意見・提言を聞く機会を設けている。職種間の交流を活発にし連絡ノートの記録の仕方を工夫をするなど、更に具体的に活発な意見が出せるような環境作りに努めたいとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分な取り組みができていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識技術の向上は、利用者に直接反映されるものとの考えで、状況の許す限り外部研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換、相談は密にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク段階での失敗は後の関係に大きく影響を与えるので特に注意をはらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人のニーズと家族のニーズは必ずしも一致していない場合が多いので確認作業は、必須と考えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合わない場合もあるので、他の事業所との連絡、調整に努めという。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力なしでは対応しきれないので三位一体を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊の支援を実施している	お盆・正月の帰宅外泊や親戚の面会訪問の機会を設けるなど支援している。今年は馴染みの場所も様変わりし、家族が仮設住宅住まいとなり帰宅できない利用者もあり、買い物やドライブなどでの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個室化により閉じこもり防止に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり実施していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で意向を聞き把握するようにしている。	入居開始時の聞き取り内容をもとに、日々の支援の中で、表情や会話から思いや意向を把握している。新規利用者には、ホームになじむまで特に本人の思いを伝えられるような関わりに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞いたり不足の部分は家族から聞くなどして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で常に見守りを行い異変があればすぐに対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中で常に見守りを行い異変があれば直ぐに対応している。	震災後、職員間での、モニタリングなどを基にした話し合いは開催できない状態にあり、入居時の聞き取りを基に、毎朝のミーティングの中での本人の思いや身体の変化などを把握して、即、それに添った対応に努めている。	日ごろから、本人の状態の変化に対応した支援を行なっているが、家族や関係者の意見も聞きながら、職員全員での意見交換を行い、更に、現状に即した介護計画の見直しが行なわれることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記入出来ているが、ケアへの実践、結果を記入し情報の共有はできていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の機能を見て出来る事は直ぐに対応することを旨としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の実状をみながら今後も関係構築に努めて行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望を聴き柔軟に受診の支援をしている	かかりつけ医への受診は、原則、家族対応としているが職員対応も多くなっている。医療情報は家族と連絡を密にしている。震災により、遠距離への通院が余儀なくされているが、努めて適正な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院への受診対応、健康管理の実施。重度化した方への訪問診療の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談室、病棟看護師と常に連携を図り今後の方針を家族と相談して取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は方針として決めていない	重度化や終末期への対応は現時点では困難なため、利用時に家族とも話し合い理解を得ている。容態等に変化があった場合は、医療や関連施設を紹介するなど、親身に相談に対応し支援している。	入居時より介護度が高い利用者が多くなっている。将来に備えて会社としての方針や職員の対応のしかたなど話し合いを重ねていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎知識、経験不足を感じているが実施ができていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設のある場所が地域の避難場所となっている	避難訓練を計画していたが震災対応で実施できていない。大震災時、地域の避難場所が近くの高台に指定されていたことから、施設が被災者を受け入れることとなった。今後、非常時の施設の対応を含め、行政や住民と話し合いを進めたいとしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重の意味を理解して丁寧な声掛けを心掛けている。	利用者は「さん」づけで呼び、言葉遣いは丁寧に尊敬の念をもって支援している。排泄や入浴時は、特に周囲に配慮しプライドを傷つけたりプライバシーを損ねないように心配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で思いや希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に行いたいことは自己決定してもらい利用者様のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣を選ぶ際利用者様に自己決定してもらい利用者様の意見を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳は職員が行うが食後の下膳やテーブル拭きなどを一緒に行っている。	献立は食事チェック表を参考に、利用者の嗜好に配慮しながら職員が考えている。冷凍食品の活用が多いが、行事食や季節感、バイキングを取り入れ、利用者が楽しめるよう工夫している。また、下膳など職員と一緒に係わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の希望にて小盛りや大盛りなど栄養バランス内で調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔清拭の声掛け、一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿時間を記録し失禁前にトイレ誘導おこなっている。	排泄チェック表を参考に、事前にさりげなく声がけ誘導し、トイレで排泄できるように支援している。利用者の半数近くが自立している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をとり適度な運動や水分補給を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが利用者様の体調、気分により時間帯や日にちをずらして入浴している。	広い浴室に三槽の浴槽があり利用者の状態に合った浴槽を利用している。一応、入浴日を定めているが、利用者の健康状態や希望を取り入れ入浴を楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中においても自由に居室で休まれたりしてもらっている。夜間も完全消灯を設けず状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師のみに任せず服薬内容もカルテにはさみ常に症状の変化に対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に料理をしたり、掃除をしたり、ゆっくりテレビを見たり、話をしたり、したいことを無理なく楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	対応出来るものはその日に対応し対応できないものは承諾を得て日を改めて対応している。	買い物や施設近辺の散歩を楽しんでいる。施設のそばに梅園があり梅の花見は利用者の楽しみとなっている。大震災後は、近隣への外出は控えてきたが、秋以降ドライブを兼ねた買い物を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力を見極めて所持管理をさせている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できるようにしている。携帯電話を所持している方も何名かいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは月に一度季節感のある装飾に変えている。その他温度管理も空調にて過ごしやすい温度に保っている。	施設は太平洋を眼下に見渡せる高台に立地している。広いホールには大きなテーブルを中心に、テレビや加湿器などが置かれ、壁面には利用者の作成した版画や窓辺の鉢花が目につれる。利用者のキーボード演奏に合わせて歌を口ずさむなど和やかな雰囲気が醸し出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード面（建物構造）は十分なスペースを確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の趣味、趣好を聴きできるだけ取り入れている。	膝元や身近に置きたい図書やアルバム、収納ボックス、遺影や位牌など、利用者が安心して思い思いに過ごせる居室となっている。なお、掃除、着替えなど利用者自身の出来る力を大切にしながら、清潔に配慮した支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、台所は広さを保ち安全に過ごしている。		